

2016年9月5日
国立西洋美術館

ロンドンで焼失した松方コレクション作品に関する文書を発見

国立西洋美術館は2016年2月、英ロンドンのテート美術館附属アーカイヴ閲覧室で「パンテクニカン倉庫保管絵画等リスト。松方幸次郎氏資産」と題された文書の存在を確認しました。

実業家・松方幸次郎（1865-1950年）が20世紀初頭にヨーロッパで収集した約1万点を超えるといわれる膨大な美術品コレクションは、おもに①国立西洋美術館創設の礎となったフランス残留作品群、②イギリス残留作品群、③日本への輸送後に数次にわたる売立を経て国内外に散逸した作品群、④パリの宝石商アンリ・ヴェヴェール旧蔵浮世絵コレクション（現在は東京国立博物館蔵）などの系統が知られていますが、このうち②の系統であるイギリス残留分は保管先であるロンドンのパンテクニカン倉庫で1939年10月におきた火災により焼失し、これまでその内訳や数は明らかにされていませんでした。

このたび確認された文書は同倉庫に保管された作品全件の作家名・作品名・評価額を一覧にしたものです。この同時代文書の発見により、いままで謎に包まれていたイギリス残留分の解明が一步前進することとなりました。松方幸次郎がロンドンで美術品収集を始めたのは1916年と言われており、その100周年にあたって、松方コレクション全容解明にせまる画期的発見となりました。

国立西洋美術館では本文書に掲載された作品の同定調査を進めており、その研究成果を2017年から2018年にかけての刊行を目指している『松方コレクション西洋美術総目録（仮称）』に反映させる予定です。また2019年には国立西洋美術館開館60周年を記念して松方コレクションに関する展覧会を計画しており、同展においても本研究成果を活用していく予定です。

1. 松方コレクション

川崎造船所（現・川崎重工業株式会社）の初代社長を務めた松方幸次郎が1910～1920年代にヨーロッパ各地で収集した美術品。1万点を超えると推計されている。その一部であるフランスに保管された作品約370点がフランス政府による接收を経て、戦後日本政府に寄贈返還されることになり、収蔵公開施設として国立西洋美術館が創設された（1959年開館）。コレクション全体を記載するリストが今日に伝えられておらず、昭和初期の売立目録などにより全貌を復元する試みが行われてきたが（神戸市立博物館編『松方コレクション西洋美

術総目録』1990年刊行)、ロンドンで焼失した作品については点数でさえ諸説あり、その全容解明が待ち望まれてきた。

2. 発見文書の概要

タイプ打ち原稿 A4 判 15 枚に作品が列挙されている。リストの項目は番号・作家・主題・評価額。全体で 316 件の通し番号が振られ、内訳は絵画 255 点、素描 82 点、版画 554 点、彫刻 17 点、家具・工芸品 45 点の計 953 点、そのほか書籍・写真など（ただし点数内訳は今後の調査により修正更新の可能性はある）。一説には倉庫の作品保管数は約 300 とも伝えられており、今回の件数はそれを裏付けている。文書の作成年代は記載がないが、前後の文書により、火災のあった 1939 年より前に遡ると推測される。

リストの末尾にある評価額総計は 81,179 ポンド 14 シリング 6 ペンス。この金額は、これまでに他の情報源により知られていた、罹災後に十五銀行に支払われた補償金の総額とほぼ一致する。

リストは英ロンドンのテート美術館付属アーカイヴが所蔵。ロンドンで 19 世紀から 20 世紀にかけて活躍した画商の一つであるアーサー・トゥース・アンド・ブラザーズ文書中に含まれていた。

3. 発見文書に含まれる作品（括弧内はリスト番号）

松方コレクションといえばこれまでフランス美術の印象が強いが、そのイメージを払拭させるほどリストではイギリスの作家が多数を占めており、その筆頭は松方と親交の深かったフランク・ブラングインである。《ベルギー（大移動）》（第 247 番）、《産業の成果》（第 158 番）などを含む絵画・素描・版画約 150 件 450 点がブラングインによるもので、全体の約半数にあたる。前者の《ベルギー（大移動）》は、1924 年に開催されたブラングイン回顧展の同名の出品作であると推測されるが、もしそれが正しければ横幅 5 メートルを超える大作である。また、これまで関係者の証言などにより、松方の美術館構想にはこの画家のアトリエを移す計画のあったことが知られているが、本リストにはそれを裏付ける《ブラングインの部屋》がエントリーされている（第 300 番）。

松方と交流があったものの、松方コレクション中に絵画・彫刻作品の存在が未確認であるところまで指摘されていた英王立アカデミーの画家 J・J・シャノン、チャールズ・リケッツ、彫刻家アルフレッド・ドゥルーリーらの作品も本リストには数点含まれている。

リスト中、比較的评价額の高い作品はフランスの画家ピュヴィ・ド・シャヴァンヌ《漁》（第 78 番）、エドゥアール・マネ《闘牛士》（第 51 番）、フィンセント・ファン・ゴッホ《花瓶の花》（第 111 番）。イギリスで活躍したジェームズ・マクニール・ホイッスラー《男性肖

像》(第 54 番)、ウィリアム・オーペン《西部の結婚式》(第 190 番)なども比較的高額の評価がつけられている。

ほかに完成作ではないが、彫刻家トマス・ブロックによる石膏模型《ヴィクトリア女王記念碑模型》(第 312 番)は、英王室バッキンガム宮殿の正面に 25 メートルの高さで聳える同名の記念碑の構想の一つと推測される。トラファルガー広場と宮殿を結ぶ儀式用道路(「ザ・マル」)が整備されたのは 20 世紀初頭であり、その南西端に据えられた同記念碑の除幕式は 1911 年、完成は 1924 年。この宮殿前の大がかりな開発計画は松方がロンドンに滞在し、作品を購入していた時期とびたりと重なっており、近隣の高級住宅クィーン・アンズ・マンションに仮寓を構えていた松方がその工事の進捗を身近にとらえていたことが推測される。

このほかジョン・シンガー・サージェント《コヴェントリー・パトモアの肖像》(第 61 番)、同《スペインの風景》(第 70 番)などは、研究者の間で大戦以降の行方が分からない作品として認識されてきた。近年刊行された画家の作品総目録(カタログ・レゾネ)にも所在不明と収録されている。本資料の発見が、こうした個々の作品に関する研究上の空白を埋め、国内外の作家研究の発展に貢献することも期待できる。

4. テート美術館付属アーカイヴ

テート美術館はイギリス美術の本格的な調査研究拠点として、アーティストや美術団体、画商等のアーカイヴ資料の収集・公開に力を注いでいる。同館アーキヴィストの話では、その一環としてアーサー・トゥース・アンド・ブラザーズ商会の遺族より同文書の寄贈を受けたのは 2010 年頃という。その後、2~3 年をかけて資料整理が進められ、現在はアーカイヴ閲覧室において外部研究者の利用に供されている。同館が所蔵するアーカイヴ資料の概要はインターネット上で検索可能である。

テート美術館付属アーカイヴ：<http://www.tate.org.uk/research/archive/collections>